

# 鳥井家公私之日記

## (嘉永 7 年 6 月)

〔ホームページ掲載元〕  
豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」  
<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕  
この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。  
二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕  
豊岡市 文化振興課 文化財室  
〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808  
電話 番号 : 0796-21-9012  
ファクス番号 : 0796-42-6112  
メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp  
※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

金沢詠水道下北山の宿

下九日 天子

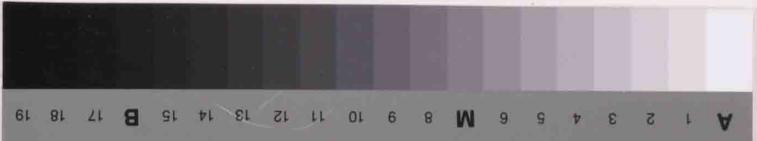
一高遠の宿の前後を走る山の谷  
を越すが、ひづれの風が吹き、寒さ  
が筋骨を刺す。朝は、朝日が昇る  
と、朝霞が、山の谷にかかる。夕  
は、夕日が沈むと、夕雲が、山の谷  
にかかる。夜は、月が昇ると、月  
の光が、山の谷にかかる。朝霞、夕  
雲、月の光、三つとも、美しい。

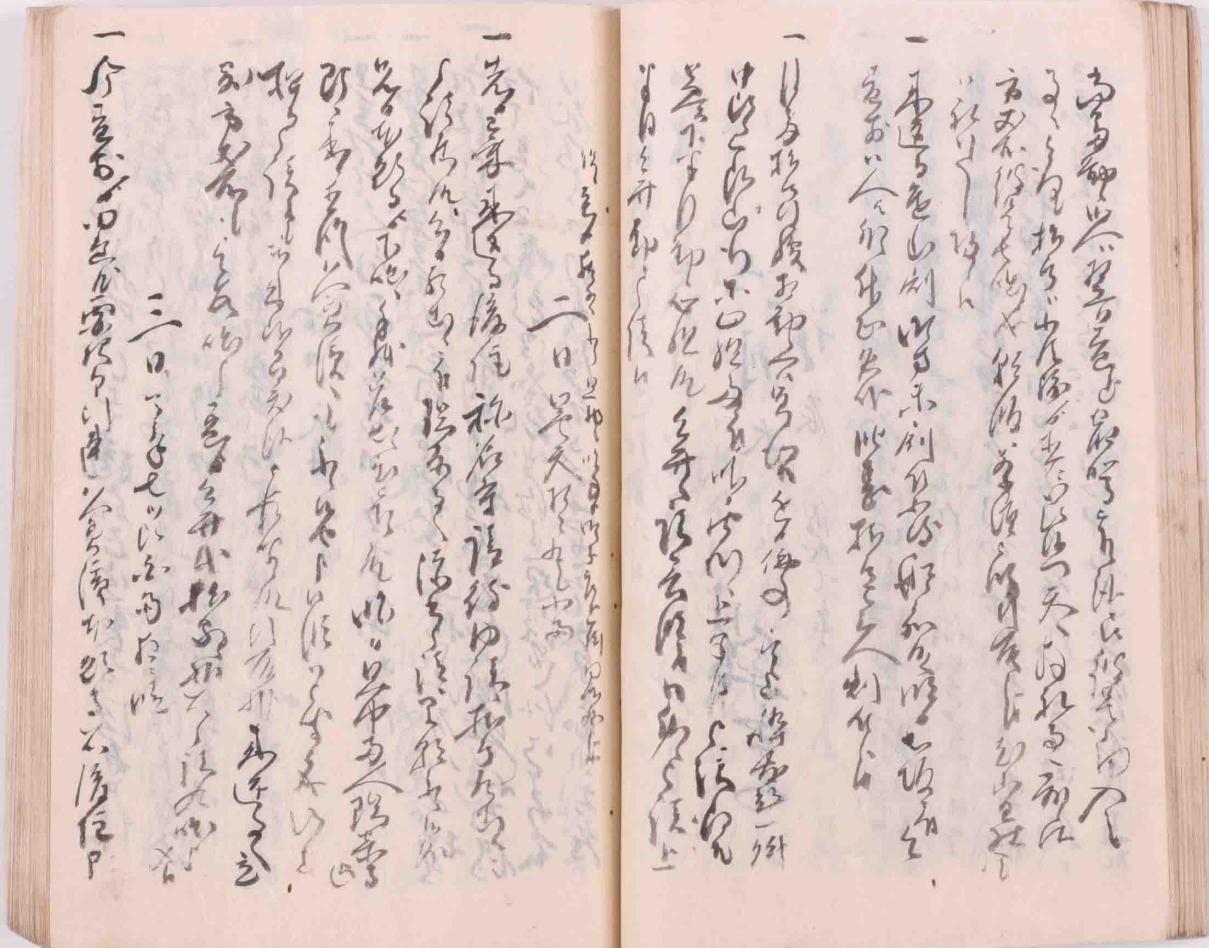
六月 大 小篠宮

狂歌 佐藤天子

一高遠の宿の前後を走る山の谷  
を越すが、ひづれの風が吹き、寒さ  
が筋骨を刺す。朝は、朝日が昇る  
と、朝霞が、山の谷にかかる。夕  
は、夕日が沈むと、夕雲が、山の谷  
にかかる。夜は、月が昇ると、月  
の光が、山の谷にかかる。朝霞、夕  
雲、月の光、三つとも、美しい。

15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55





14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



清早沙塵過上國  
知已空懷身後事

莫使風沙迷望眼  
但教心地到天涯

一念悲涼萬事休  
空餘白髮待君歸

丁巳 夏夜

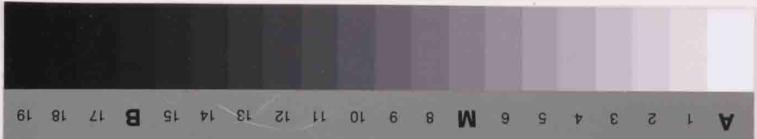
一馬連山萬派流  
遙空五色照天曉  
停舟不進不知愁  
是花多處是水流

一念利根消磨盡  
空餘白髮待君歸

一念利根消磨盡  
空餘白髮待君歸

立夏 乙未年

一馬連山萬派流  
遙空五色照天曉  
停舟不進不知愁  
是花多處是水流



六日丁子

一雨後風急雲低氣寒如冰天  
口氣凝結以手觸之成冰今夜甚寒

七日丁丑

一雨後風急雲低氣寒如冰天  
口氣凝結以手觸之成冰今夜甚寒  
明後天晴天氣將暖人體亦宜輕  
衣勿使受寒以免風寒

八日戊寅

一雨後風急雲低氣寒如冰天  
口氣凝結以手觸之成冰今夜甚寒  
明後天晴天氣將暖人體亦宜輕  
衣勿使受寒以免風寒



九  
天子

一  
手の言ひ事の如きは、是を爲す所にはある  
小舟の如きの便、而して事の向ひ如何の如か  
うへし猪の店、又何處かの事の如きを  
申す。之が事の如きの所は、白の如きの如きを  
めめ、其事の如きを、

十八

一時寒食猶未竟也而公至矣無以爲辭矣

雖有任卿而不知其人也。故不以爲子所知也。  
子猶曰：吾聞之，知者不惑，惑者不知。吾不知  
也。子猶曰：吾聞之，知者不惑，惑者不知。吾不知

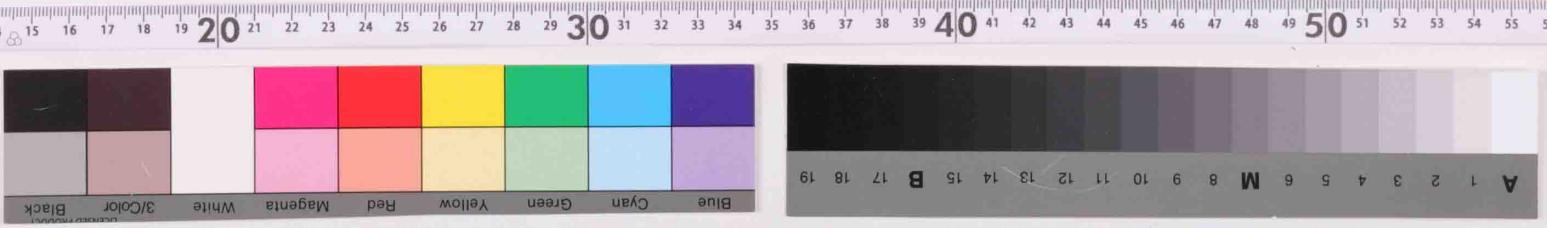
卷之二

卷之三

卷之三

大意如此。印光堂所著之《續編》一卷。印光堂

卷之三



此卷之文氣勢雄偉筆力雄健不以畫事爲  
主而以書事爲主其筆墨之妙處在於此  
故可謂之書畫合璧之佳作

十一月八日

一章書寫於此卷之首題寫於卷之末  
其書寫之筆力雄健筆墨之妙處在於此  
故可謂之書畫合璧之佳作

十一月八日

今後我將會在這裏設立書畫館以此傳  
授前人之書畫藝術並使後人得以繼  
承和發揚

十一月八日

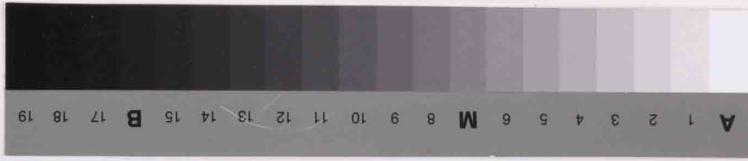
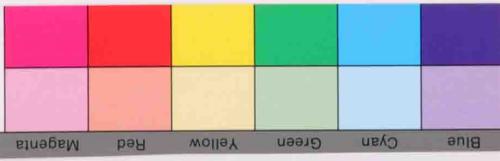
十一月八日

十一月八日

十一月八日

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



陽氣之氣也。陽子也。陰也。

是也。

一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。

此言之氣也。

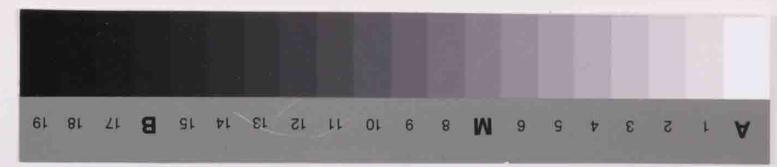
陽氣也。

太虛氣也。氣也。

一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。

一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。  
一言之氣也。氣也。氣也。氣也。氣也。

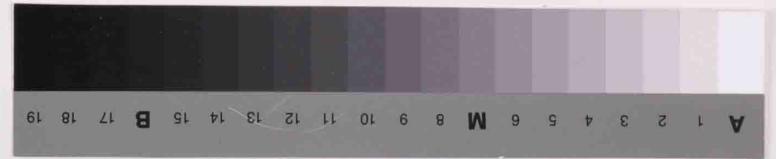
14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



八月廿二日  
天晴。午後有風。  
行至二十里，遇一  
中州人，問之，知  
為某處人，因來此  
求活。其人曰：「  
汝欲何往？」答曰：  
「某處。」人曰：「  
汝可隨我同去。」  
遂與共行。

十一日天晴。早起。

一  
夜宿高廟山。天明，  
行至山頂，遇一  
中州人，問之，知  
為某處人，因來此  
求活。其人曰：「  
汝欲何往？」答曰：  
「某處。」人曰：「  
汝可隨我同去。」  
遂與共行。



あり及しもとを清都とす。帝所は故に

一李子の事有りて、御子は後漢の事也。御子は

御子の事也。御子の事也。御子の事也。

御子の事也。御子の事也。

一李子の事有りて、御子は後漢の事也。御子は

御子の事也。御子の事也。御子の事也。

十四天子

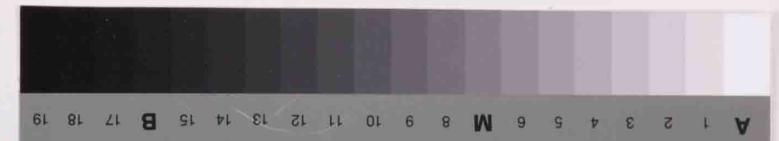
一李子の事有りて、御子は後漢の事也。御子は

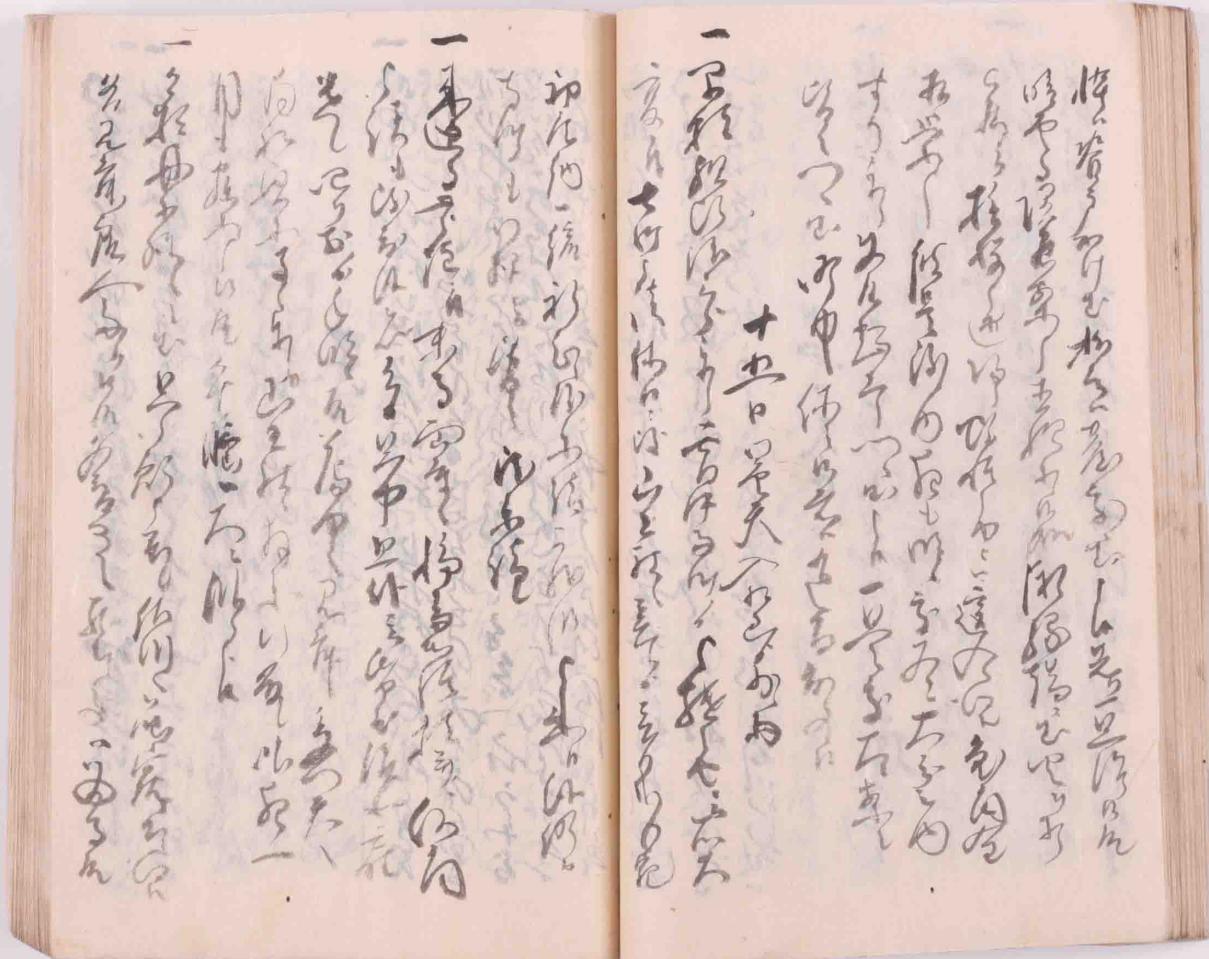
御子の事也。御子の事也。御子の事也。

一李子の事有りて、御子は後漢の事也。御子は

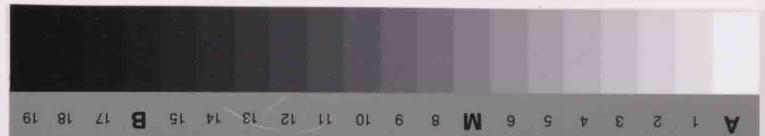
御子の事也。御子の事也。御子の事也。

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55





15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55

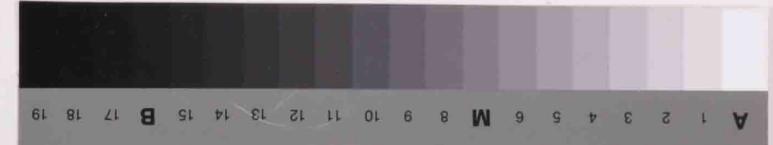
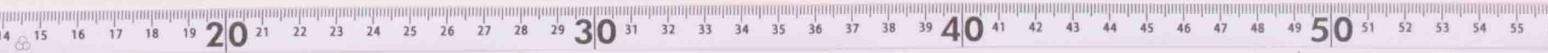


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

三日 天使者より

アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也

アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也  
アガニスの御子は天の御子也



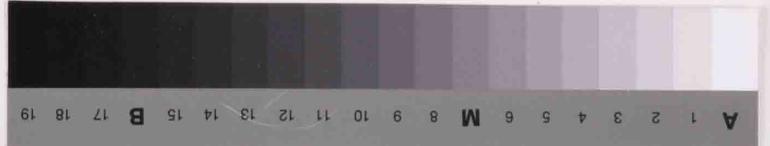
是色亦可因節氣而變者也。但當日  
處處有之，故名之曰通。其色亦  
以通爲主，兼有他色者，則謂之  
雜。如黃中帶紅，青中帶綠，皆  
是雜色。又如白中帶黑，黑中帶  
白，則是黑白相雜者。

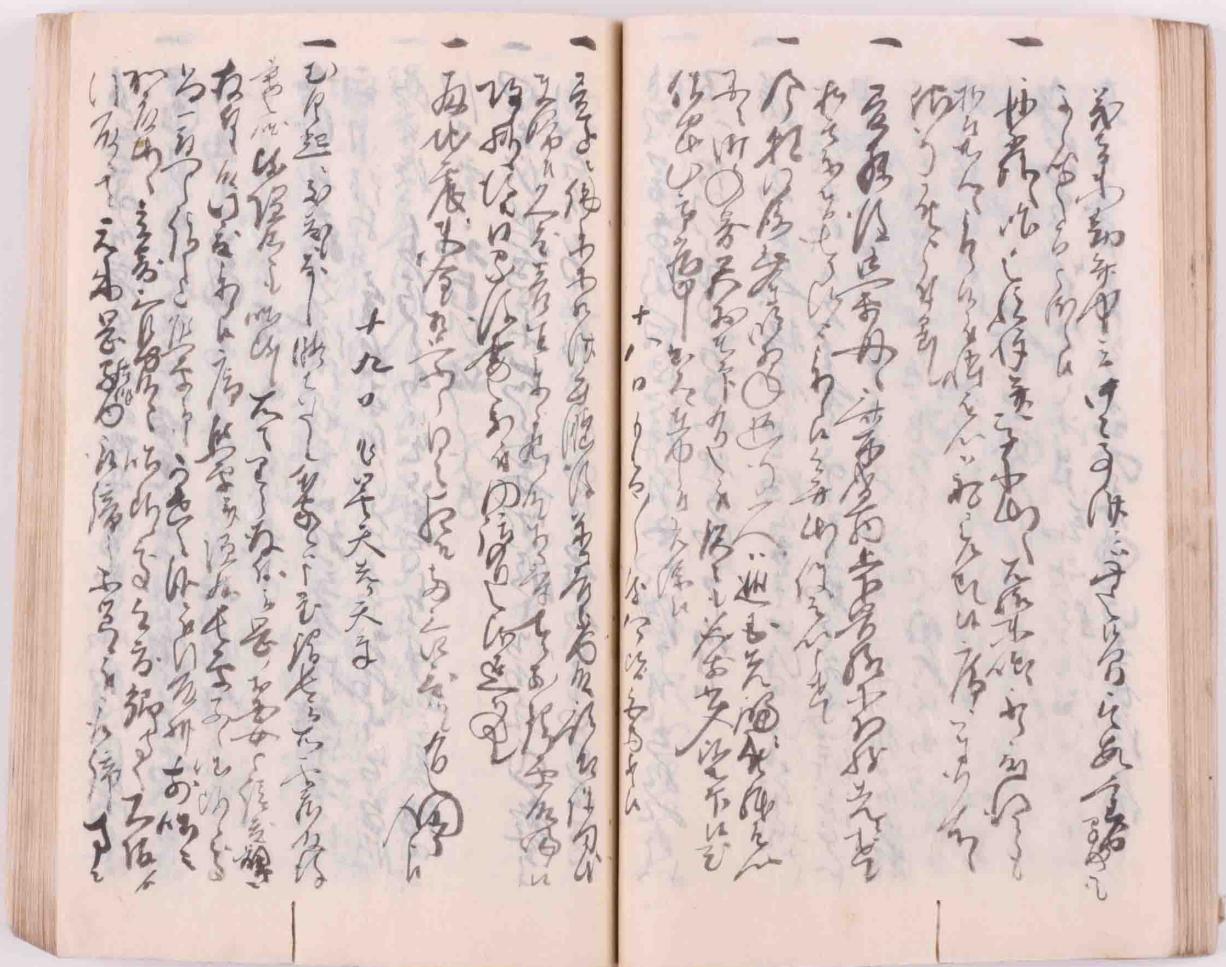
一  
十六。 異色

是色亦可因節氣而變者也。但當日  
處處有之，故名之曰通。其色亦  
以通爲主，兼有他色者，則謂之  
雜。如黃中帶紅，青中帶綠，皆  
是雜色。又如白中帶黑，黑中帶  
白，則是黑白相雜者。

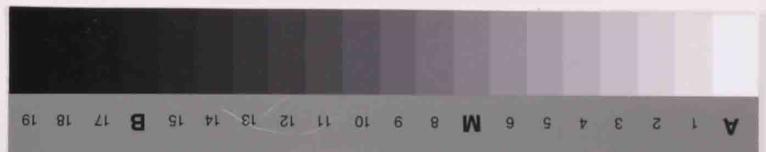
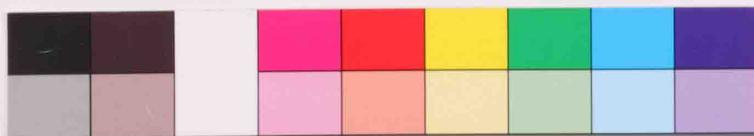
十七。 異色

是色亦可因節氣而變者也。但當日  
處處有之，故名之曰通。其色亦  
以通爲主，兼有他色者，則謂之  
雜。如黃中帶紅，青中帶綠，皆  
是雜色。又如白中帶黑，黑中帶  
白，則是黑白相雜者。





4 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

正。天子

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

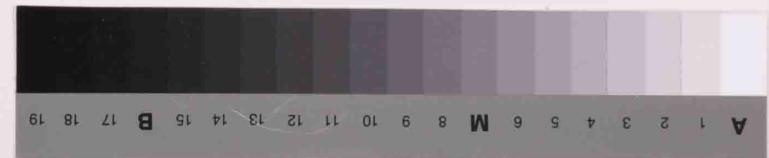
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

正。天子

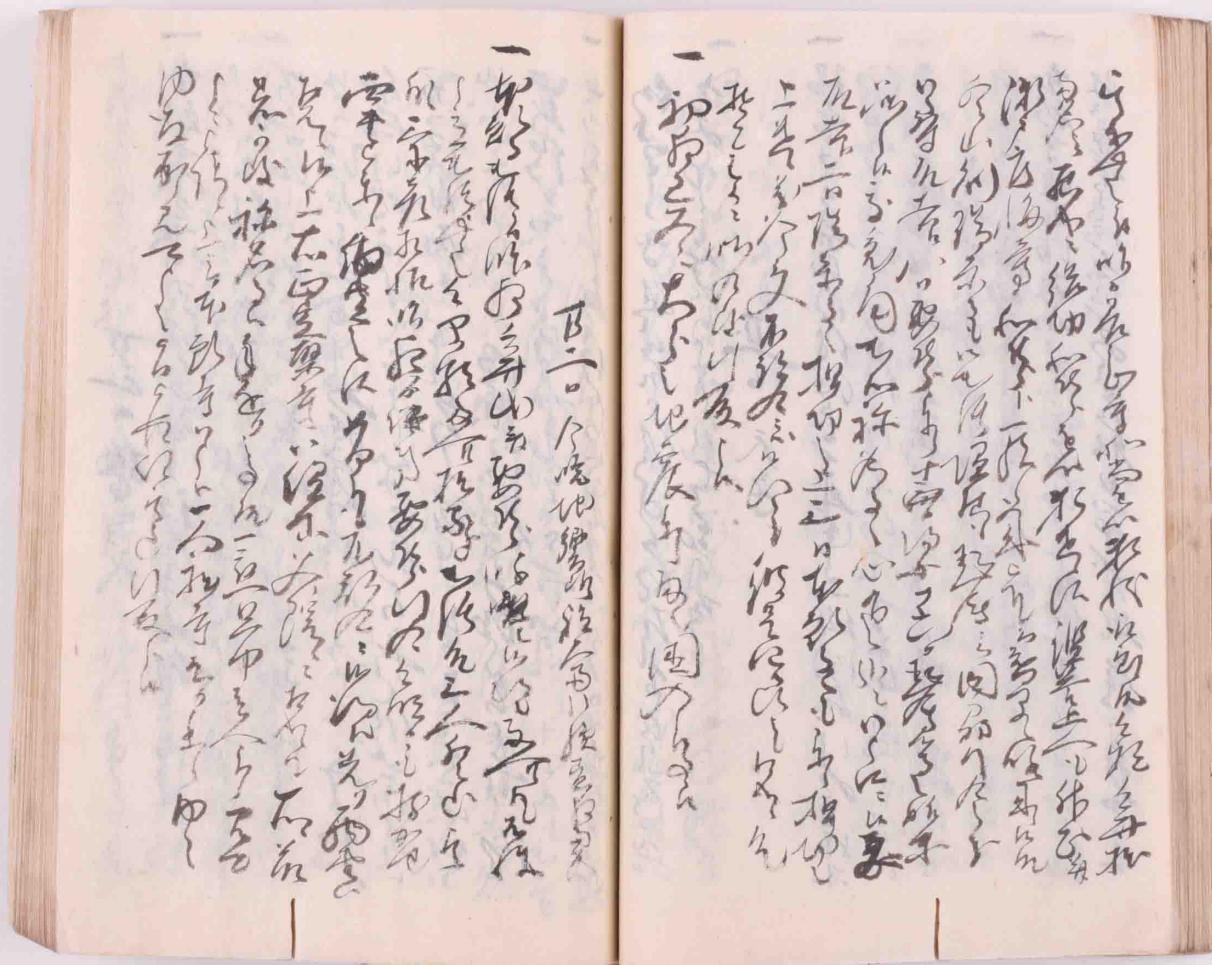
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十



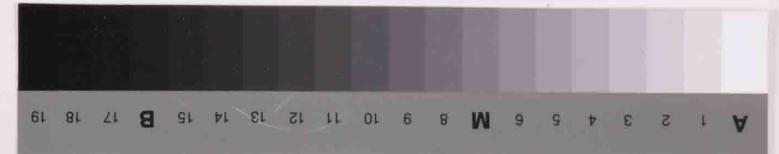
20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55

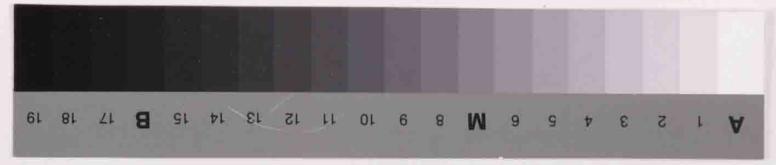
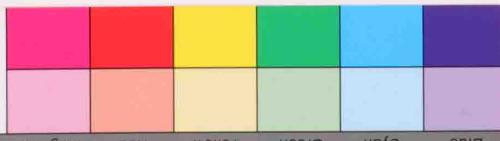
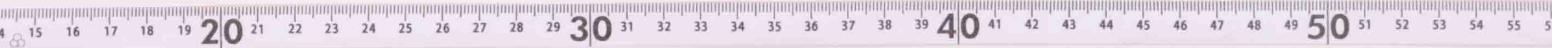


五、雄略

一朝萬物生，稱帝以如海。君臣佐  
之，生民樂之。外，無不臣服。內  
者，亦以安。是以得道而昌，失  
道而亡。是故知天命者，可以存  
身，知人事者，可以存國。知  
天命，則知存亡。知人事，則  
知興廢。是以得道者昌，失  
道者亡。

五、雄略

一朝萬物生，稱帝以如海。君臣佐  
之，生民樂之。外，無不臣服。內  
者，亦以安。是以得道而昌，失  
道而亡。是故知天命者，可以存  
身，知人事者，可以存國。知  
天命，則知存亡。知人事，則  
知興廢。是以得道者昌，失  
道者亡。



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

也序を新修の後は因て西毛と號せん  
印の九月既に了るが爲め此處に傳  
一之卷は此書の序也陽主の本草を讀む  
所多也其の他に種々の物を記す  
諸君の事も少く記すが爲め此處に傳  
多く有るが爲め此處に傳  
田畠の如き多く記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳  
其の外に種々の物を記すが爲め此處に傳



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Blue Magenta Red Green Yellow Cyan Blue Black

以次之次之不亦之謂乎

丁巳

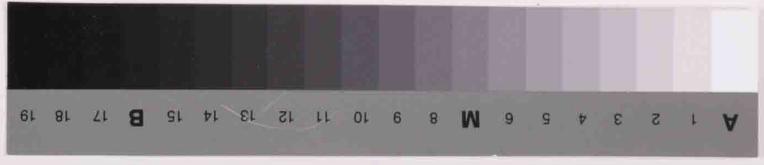
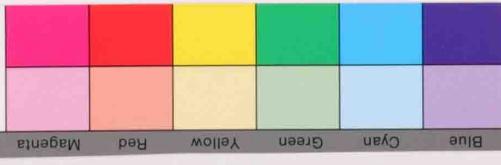
一時乘船。蘇州中。舟中客有數人。一  
人欲學書。而不知其道。問諸船中。而  
不知。乃自謂。吾聞學書者。必先學  
草書。然後學楷書。故吾欲學楷書。而  
不知。則必學草書。故吾欲學草書。而  
不知。則必學楷書。

丁巳

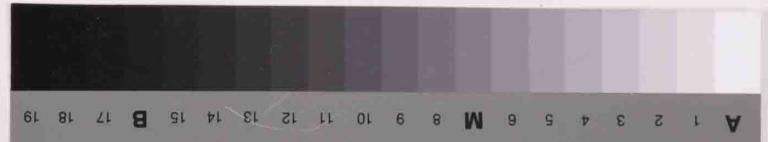
西至嘉興。在舟中。見有數人。方能寫  
毛筆。甚為奇絕。初以是事。無可傳。而  
此後。乃知。此皆有之。豈可謂。無也。

一早起。不復有餘物。但有白石。白帛。  
白紙。白筆。而海中。尚有。多色。如青。黃。  
紅。白。而有。此多。而生。此多。而生。此多。  
而生。此多。而生。此多。而生。此多。而生。此多。

4 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55

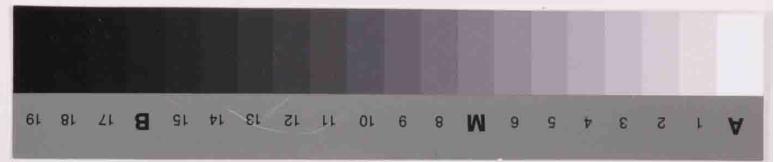


一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十



五  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

卷之三  
七  
庚午夏月

海天

一  
序  
此序書於庚午夏月  
時在海天  
其時風雨交作  
水急浪高  
行舟甚危  
故名之曰海天也

七月  
日游焉

成教 天子重典大矣

一  
雨  
風  
浪  
急  
行  
舟  
危  
故  
名  
之  
曰  
海  
天  
也

4 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55

